

会 議 録

会議の名称	平成22年度第3回行田市地域活性化推進委員会
開催日時	平成22年10月7日(木) 開会：午後2時 閉会：午後4時10分
開催場所	産業文化会館 第2会議室
出席者氏名	川辺秀夫委員、長谷川浩委員、松井秀二郎委員、今村武蔵委員、 新井重人委員、石崎秀夫委員、高橋総合政策部長、夏目生活課長、 門倉商工観光課長、河野観光プロジェクト推進室長、小林農政課長、 大谷福祉課長、島田高齢者福祉課長、風間まちづくり推進課長
欠席者氏名	戸塚昌利委員
事務局	高橋企画政策課長、五十嵐同課主幹、岡部同課主査
会議内容	司会 高橋企画政策課長 議事 (1)地域活性化についての意見交換 (2)その他
会議資料	○資料1 地域活性化の取組フレーム ○資料2 まちの活性化とは
その他必要事項	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここからは、委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、高橋会長に議事の進行をお願いする。 ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・会議の公開について事務局に伺う。本日の審議内容に、非公開とすべき事項はあるか。
事 務 局	<ul style="list-style-type: none"> ・特段、非公開とすべき事項はない。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特段の非公開事項はないとのことであり、本日の会議を公開するということよろしいか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・異議なし
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、公開して会議を進める。 (傍聴者なし) ・議事の(1)「地域活性化について意見交換」についてであるが、資料1について事務局の説明を求める。
事 務 局	<p><資料1「地域活性化の取組フレーム」により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の会議において委員から「まちの活性化とは何か」という疑問が出されたが、委員からそれについて資料を提示していただいているので、説明していただく。
委 員	<p><資料2「まちの活性化とは」により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・説明を受け、他の委員の意見を伺いたい。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田に魅力がなければ、行田から企業が出ていってしまい、人が減っていく。何か焦点を絞りそこに向かって、自立した市民の力と行政の力を合わせることで、何かができるのではないか。例えば、環境のまちということを出して企業を誘致する、行田では良い教育を受けられるということで人が集まる、そういったことでまちの活性化につながるのではないか。行政だけの問題ではなく、市民との相互の理解が必要である。
商工観光課長	<ul style="list-style-type: none"> ・忍川の再生というのはハード面では難しい面もあるが、重要なことであると思う。教育の優れたまちという点については、国の動きと

議 長	<p>は別に、行田市独自の取組が必要だと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忍川の再生についてだが、住民から忍川の真菰をすべて刈り取ってほしいという意見が出ているが、真菰は川の浄化に役立つものであるので、全てというわけにはいかないと思う。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・治水の観点からそのような意見が出るが、自然再生の観点とは相反するものである。相互の調整が必要である。かつては地域の住民が自分たちで草を刈ったりしていたが、今は行政任せになっている。自分たちや子どもたちのために、治水と自然再生との調整が必要であることを、地域の人たちに説明する必要がある。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・忍川を使って何かをやっていこう、また、それをまちの活性化に結びつけていくということが大事である。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・自然とうまく付き合うためには、人間が適度に手を加える必要がある。維持管理は大変だが、それをやらないと次世代に自然を残すことはできない。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な観光スポットというのも必要である。一過性のものではなく、「魅力ある行田」を持続させるものが必要ではないか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・忍城に焦点を当て、「おもてなしの心」という視点から、商店連合会と連携し売店を開いている。これをもっと良くするために若い人の力を借りたい。若者がいきいきとしたまちをつくり、行田に若者が残るような活動が必要である。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちが何かをやろうとしているときに、年配者が若い人たちを助け、その力を引き出してあげるような体制、風土が必要。それがないと、若い人たちがどんどん市外に出て行ってしまい、まちの活力を失うこととなる。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田には、若者が行動すると、周りがマイナスになるようなことを言う風潮があるが、それでは今の若い人たちは萎縮してしまう。一方で、やる気があるというのは若い証拠なのだからという、励ましの言葉をいただくこともある。 ・市を動かす中心はやはり市役所である。若い人の良いところを引き出すような風潮が市役所の中にも必要だし、市役所の内部が活性化することが必要だと思う。 ・この委員会には女性委員がいない。女性にも活性化のために活躍し

<p>委員</p>	<p>てもらわないといけない。また、活性化のためにはやはりお金の動きも必要であり、一般的に家庭のお金の使い方を決める女性の意見を取り入れていかないと、活性化にはならない。男女の意見をバランスよく融合させれば、良いものが生まれるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の場合、観光の目的の大部分はグルメと土産である。博物館や寺社などの観光スポットを訪れるのは、出かけるための動機付けである。食べる所や土産物がなかったり、トイレがきれいに整備されていなかったりすると、女性は二度とそのまちには来なくなる。観光地には女性が男性を連れてくるわけだから、女性の視点も大事にしなければならない。また、女性が一目見て分かるような、まちの案内表示が必要である。 ・市民ボランティアの協力をいかに得るかということも重要である。その中で特に重要なのは自治会である。個人情報保護意識もあって地域コミュニティが希薄になっているが、長期的なまちづくりを考えた場合には、地域におけるコミュニケーションのとり方も重要である。
<p>観光プロジェクト推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・忍城を訪れる人たちのための食事の場についてだが、各店舗にPRパンフレットを作成してもらおうようお願いし、そのパンフレットを忍城で配布する取組を行っている。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田で育ってきた今までの状況から見ると、行田に悪いところは感じられなかった。「子どもを育てたいまち」というのは貴重である。 ・地域活性化の目的は、市民一人ひとりが幸せを感じられるまちにすることである。 ・活動している人に対してプラスの発言をする人がいるまち、肯定してくれるまちになってもらえるとよい。 ・フライやゼリーフライには、人をひきつける要素がある。それを目当てに訪れた人たちをとらえ、まちを活性化させるためには、その後の観光資源や店の努力が必要である。 <p>観光プロジェクト推進室長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先日の B-1 全国大会では、ゼリーフライを「埼玉県代表」ということで売り込んできた。行田のゼリーフライの知名度を上げるという点では、大きな成果があった。これからは、行田を訪れる人たちを、どうもてなすかということを考えなければならない。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな成功例を積み重ねていくことが必要。 ・「のぼうの城」映画化の次のことを考えなければならない。行田にまた来たいと思わせるためには、どうしたらよいかということである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・食べるお土産というのを考えると、行田は田んぼがあるので、行田の米をうまく活用できるとよい。
観光プロジェクト推進室長	<ul style="list-style-type: none"> ・足袋作りは好評である。行田にはこうした要素がたくさんあるのだから、これらを掘り起こしていくことはできないか。 ・商品を売るときに袋に「忍城」の名前を入れるなど、何か付加価値があるとよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・販売の工夫として、情報を載せるというのは重要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市の長期的なビジョンを示す必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を重視したい。特に幼児期の教育にコストをかけないと、社会的なコストが高くなる。幼児期の教育とは、親の教育のことである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田がメディアに取り上げられることが、まちへの愛着を生む。それが市民にとっての自信にもつながるし、責任感も出てくる。イベントをやるなら、全国的に取り上げられるようなものをやると、市民が誇りを持ち、自慢できるようになっていく。 ・農家がゆとりのある生活ができるような方法はないか。農家は自分で販売する方法を持たない。自分で作った物に自分で値をつけ、自分で販売する方法が必要なのではないか。
農政課長	<ul style="list-style-type: none"> ・軽トラ朝市は、その試みのひとつである。直接売ること、自分で作った物に自信を持ってもらう、売れる物を作るということにまたチャレンジしてもらう、という趣旨である。現在は行政主導で行っているが、最終的には農家による完全な自主運営を目指している。行田の場合ほとんどが水田なので、野菜作りにはハード面でハンデがある。農家の集団化、大規模化を進めてきたが、戸別補償制度が始まったので、その影響を検証する必要がある。その他に、地産地消ということで、行田産ビール麦の商品化をメーカーと進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全に役立っているという農地の価値を市民に認めてもらわないと、農家の方たちに自信を持ってもらうことができない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・土産物はいろいろあるが、それぞれの店に行かないと買えない。古代蓮の里の売店のような、観光客がワンストップで土産物を買う所

委員	<p>があるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南大通りが開通すると、交通体系が単純化されるので、女性がまちに入ってくるのでは。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街にやる気を出していただかないと、商店街は活性化しない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街の意識を変えるのは難しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者社会を迎え、商店が「御用聞き」を始めるチャンスである。一方、消費者側は新しい店ができると車で行けるからといって、そこに集まる傾向があるが、将来、運転ができなくなったときのことを考え、地元の商店との共存を認識しておく必要もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店側の熱意が消費者に伝わらないといけない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・商店に基本的な理念を持ってもらう必要がある。まちの活性化についても同じである。共通の理念があれば、何年かかるか分からないが、活性化すると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の優れたまちというのも大事である。市内に高校が1校しかなくなってしまった。市民も含めて中高等教育のあり方を考えていかないといけない。市内から高校がなくなるという事態は避けなければならない。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたり議論していただいたが、以上をもって、議事を終了させていただく。 ・議長の職を解かせていただく。
司会 生活課長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化活動補助制度の状況について、説明していただく。 <p><補助対象事業の進捗状況、再募集の状況について説明></p>
事務局	4 閉会